

新たなる前進のために

日本大学全学共闘会議

政経学科闘争委員会書記局

一つの時代が終り、一つの時代が始まる。その様子は激動の中である者は感性的な認識の地点から、ある者は理性的な判断の過程から来いの中に入り、あらゆるものを投げ捨て、奮闘し、傷つき、またながら真の人間解放の為に闘われ、日本大学全学共闘の先鋒的斗争は、今、まさに一身を過えるに致した。

まさに普遍的内容を含んだ人間の闘争である我々日大生の戦いは、巨大な力を生み我々日大生のみならず、全口の学友、労働者、市民にも共闘のものと成り、大きく成長している。

日大斗争が今までの学闘斗争にみられない程、激しい闘争と死力をこめて争われる事態は、大学当局とりわけ大学支配者と国家権力を基とする徹底的弾圧を、ハリネズミ一類の斗争において、は当局と国家権力の余りにも怒着した弾圧に取材に当たった報道陣は、びっくりしたと非人間的発言に対する怒りとしてある。我々斗争日大生の根柢的存在を踏けるの究極的な闘争であるし、まさにそれを拒否することは、実には人間であることを拒否することである。

政経学科斗争委員会は、今たまたま、体制という脅の下に母親に寄りまわっているすべての学友、そして聖業斗争に、反革命分子となった学友に、対し、最も、非難を与えるものである。

その非難を、若者達が、矛盾を、徹底的に、前

進的に解決しようとする強靱、あるいは、百誠を、もたず、即時的に矛盾の一方を切り捨てることにより、矛盾を、解決しようとする誤りを犯していることに対して、そして、その切り捨てにより、彼等が守ろうとするものは、単に自らの現実的進歩であり、将来的展望であるのだ。いかに、論議を、立ち上げようとも、彼らの精神の強靱、誠実に、苦悩しながらの前進、矛盾の止揚ではなく、利害関係を、一義的に、この矛盾の棄却、矛盾からの逃がりの、真に、人間的なものを、捨てる、行儀として、彼等は、たい、何を、獲得しようとしているのだ。小は、自分たち、は、け、将来、だけでは、ないが、学友諸君、今、我々、日大生、には、今、まで、以上の、自己、愛護、が、要求、されている。オト、ライ、キ、を、し、続け、こ、いた、学友、にも、闘争、から、離脱、した、学友、にも。

現在、古田、理事、会、は、ま

たく、同、答、の、あり、得、ない、撥、業、再、会、を、も、こ、し、て、六、月、中、旬、に、再、び、独、裁、体、制、を、固、め、ん、と、い、う、日、大、上、方、の、学、会、は、決、して、それ、を、許、して、は、な、ら、ない、し、その、時、に、古、田、体、制、を、懸、念、に、も、た、で、に、打、ち、す、え、ば、い、れ、ば、な、ら、ない、そ、し、て、古、田、体、制、に、干、渉、す、る、以、外、の、任、に、道、の、な、り、反、動、教、授、を、徹、底、的、に、放、逐、し、な、れ、ば、な、ら、ない、学、友、諸、君、我、々、は、当、局、の、教、知、れ、ない、血、の、弾、圧、を、受、け、て、は、な、ら、ない。

巻につく